令和３年度　　学　校　評　価　【　計　画　書　・　報　告　書　】　　加賀市立　庄 小学校 校長 金津 美紀　　印

≪学校教育ビジョン≫
教育目標　　「かしこく　やさしく　たくましく」
「行きたくてたまらない、行かせたい、行ってみたい学校」
〈すすんで学ぶ子〉　〈自分も人も大切にする子〉　〈元気な子〉

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果（中間）	判定結果（最終）	今後の改善策
①教育課程・学習指導	・国語科において主体的に取り組む児童を育てる。	・主体的な学び、つけたい力が身につく授業改善に取り組む。	教務 学力づくり部	・主体的に問題から大切なことを読み取り、自分の考えを伝えたり書いたりすることを苦手と感じている児童が多い。	【成果指標】 ・国語学期末「読む」テストで80点以上取ることができる。	国語学期末「読む」テストで80点以上取ることができた児童の割合が A：80%以上　B：70%以上 C：60%以上　D：60%未満	国語学期末「読む」テスト	B	B	テストで80点以上取ることができた児童の割合は75%であった。主体的に取り組むために児童とともに課題をつくる教師の意識は高まった。しかし、問題から大切なことを読み取る力はまだ弱い。来年度は研究を説明文にも広げて授業改善に取り組んでいく。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	・児童の自己肯定感を高める。	・学級活動などで構成的エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを実施し、共感的人間関係を育み、自己肯定感を高める。	心づくり部 体づくり部	・友だちのよいところ見つけや、ぽっかぽかレターなどの取り組みで，児童の自己肯定感が向上してきたが，依然として低い児童がいる。	【成果指標】 ・自分のよさを積極的に見つけようとする。	自分には良いところがあると答えた児童の割合が A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満	児童アンケート（学期末）	B	A	自分には良いところがあると答えた児童の割合は94%であった。2学期は友達の良いところ見つけをハッピーレターで行った。クラス内の良いところ見つけの活動を通して、友達や教師から認められることで、自分のよさを実感できたと思われる。今後も、授業の中でもお互いを思いやる行動について認め合い、共感的な人間関係を育むようにする。
	・いじめ防止基本方針に基き，いじめの未然防止，早期発見，早期解消に努める。	・いじめに関するチェックシートや児童アンケートを毎月実施し児童の様子を把握する。 ・いじめ問題対応アドバイザーやSCを活用しながら，いじめ対応力の向上に努める。	心づくり部 体づくり部	・点検カードを実施し，児童の様子を観察したり気になる児童の話をきいたりすることができた。保護者、地域の方々の声にも耳を傾け、いじめの早期発見に努め、教職員全体が普段からいじめを意識して指導に当たる必要性を確認した。	【満足度指標】 ・常に，いじめ問題を念頭において，児童の指導にあたる。	常にいじめ問題を念頭において，児童の指導にあたっていると答えた教職員の割合が A:90%以上　B：80%以上 C:70%以上　D：70%未満	教職員アンケート（学期末）	A	A	いじめを念頭において,児童の指導に当たっていると答えた教職員の割合は100%であった。来年度も継続して,いじめの未然防止・早期発見に努め,教職員全体が普段から子どもの様子を意識して指導に当たる。
③進路指導・キャリア教育	・キャリア教育の4つの柱の中の「自己理解・自己管理能力」を高める。	・好きでないことや苦手なことでも,くじけずに取り組む。	心づくり部	・与えられたことには素直に取り組む児童が多いが，自分で目標を持って，いろいろなことに取り組もうとする意欲が低い。	【満足度指標】 ・キャリア教育で育てたい力：自己理解・自己管理能力（学年の重点項目）を意識してキャリアパスポートを活用して指導にあたる。	好きでないことや苦手なことでも,くじけずに取り組むことができたと答える児童の割合が A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満	児童アンケート（学期末）	B	B	くじけずに進んで取り組むことができたと答えた児童の割合は86%であった。授業,けん玉大会やなわとび大会,たてわり活動でめあてづくりや振り返り活動を充実させる。また,努力した過程を認める声掛けを行う。
④保健管理	・児童の体力を向上させる。	・体育の学習の予備運動として、コーディネーショントレーニングを取り入れ、運動能力の基礎作りを行い、運動に対する意識の改善に取り組む。 ・走ろう運動やスポチャレチャレンジを縦割りグループを生かして取り組む。	体づくり部	・走ろう運動やスポチャレを行い体力の向上を図っているが、運動に対する意識の二極化がみられ、D･E群の児童が増えてきている。	（成果指標） ・「運動することが好き」という肯定的な回答の割合が、85%以上になる。	学期末に運動することが好きと答えた児童の割合が、 A：90%以上　B：85%以上 C：80%以上　D：80%未満	児童アンケート（学期末）	A	A	「運動することが好き」と答えた児童の割合は91%であった。来年度も同様に「運動することが好き」と感じられる活動を充実させる。 体力テストの結果、AB評価の児童が33%であった。来年度は授業を通して、体力向上を図るための取り組みを行っていく。
	・基本的な生活習慣を身につける。	・児童健康委員会の活動で，睡眠をはじめとした免疫力を高めることに関する取り組みを実施する。 ・生活習慣チェックに取り組む。	体づくり部	・早寝早起きの取り組みを行い、十分な睡眠時間を取れている児童は増えたが、就寝時刻が著しく遅い児童が一定数いる。	【成果指標】 ・低学年9時間、高学年8時間の睡眠時間を確保する。	低学年9時間，高学年8時間以上睡眠がとれている児童が A：80%以上　B：70%以上 C：60%以上　D：60%未満	児童アンケート（学期末）	B	B	十分に睡眠時間がとれていると答えた児童は79%であった。生活リズムチェックや担任による指導を粘り強く行い、睡眠時間を十分に取れる児童が増えてきた。今後も、継続した指導を行っていく。
⑤安全管理	・各種の訓練を通して，児童の危機対応力と教職員の危機管理能力を高める。	・危機管理マニュアルに沿った方法で訓練や研修を実施し，児童の危機対応力と教職員の危機管理能力が高まるように努める。	教頭・ 各担当	・火災・地震，不審者対応の避難訓練を実施しているが，教職員の危機意識維持・向上には不断の取組が必要となる。	【成果指標】 ・緊急時の対応マニュアルに従って，教職員や児童が適切で安全な避難行動ができる。	避難訓練時に，教職員・児童が適切に行動できたと感じた教職員・児童の割合が A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	児童アンケート（避難訓練後）教職員アンケート（学期末）	A	A	避難訓練において役立つ訓練になったと回答した児童・教職員は100%であった。今後も年間計画だけでなく，随時児童・教職員ともに継続して危機対応力の向上を図っていく。
⑥特別支援教育	・校内支援を充実させる。	・各担任から児童の様子を聞き，計画的に，また必要に応じて校内支援委員会を実施する。 ・支援方法を検討し，全職員で共通理解のもと，指導に生かす。	心づくり部	・校内支援委員会、児童理解の会で困り感を持つ児童の情報共有をしてきている。今後も継続して保護者や専門機関との連携を図り、支援策について検討し、全職員で対応していく必要がある。	【満足度指標】 ・校内支援委員会で具体的な支援策を検討し，全職員で支援に努める。	校内支援委員会で具体的な支援策を検討し，組織的に支援を行えたと答えた教職員の割合が A：100%　B：90%以上 C：80%以上　D：80%未満	教職員アンケート（学期末）	A	A	組織的な支援を行えたと答えた教職員の割合は100%であった。気になる児童への支援方法について専門相談員から助言指導を仰いだ。児童理解の会を通して児童の様子を教職員で共通理解することができた。今後も継続して行っていく。
⑦組織運営・業務改善	・教職員の業務内容や役割の適正化等により，業務改善を図る。	・運営委員会や部会を開催し組織的に学校運営を図りながら，業務改善・スリム化に向けた取組を進める。	教頭 教務	・会議の効率化を図ったり各部の業務を協働的に行ったりするなどの取組や教職員が退校時刻を意識して業務を行うようになったことにより，業務改善がやや進んできた。今後も，少しでも業務改善につながる実行可能な取組を追求していく必要がある。	【努力指標】 ・業務改善の取組を進める。	業務改善の取組が進んでいると感じた教職員の割合が A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	教職員アンケート（学期末）	A	A	業務改善が進んでいると答えた教職員の割合が90%であった。業務を協働的に行っていると感じられる。部会を開いて振り返るとともに、来年度以降も業務の平準化を行い実行可能な取組を追究していく。
⑧研修	・校内研修を充実し，授業改善を図る。	・校内研修サポート等を活用し，計画的に授業研究を行う。 ・授業改善のためのOJTが日常的に行われるような環境を整える。	教務 学力づくり部	・新学習指導要領を視野に入れて，授業実践に取り組むことを共通理解している。	【満足度指標】 ・研修やOJTをもとに授業改善に取り組んでいる。	研修や日常的なOJTをもとに前学期より授業改善ができたと答えた教職員の割合が A：80%以上　B：60%以上 C：40%以上　D：40%未満	教職員アンケート（学期末）	A	A	授業改善ができたと肯定的に答えた教職員の割合は100%であった。特に、課題や解決するための方法を児童に考えさせる教師の意識が高まった。来年度も授業スタイルを継承し、タイムマネジメントを行い、学びの自覚化を図っていきたい。
⑨保護者，地域との連携	・教育活動の発信に努め，保護者や地域と連携し，開かれた学校づくりを目指す。	・教育活動の情報発信を積極的に進めるとともに，保護者・地域と連携した教育活動を推進する。	教頭 各担当	・学校便りやHPなどで，学校の様子を家庭や地域に発信している。様々な教科・行事で地域の人材を生かしているが，年間の見通しをもって取り組む必要がある。	【努力指標】 ・教育活動の発信に努め，保護者や地域と連携した学習活動を行う。	教育活動の発信と保護者や地域と連携した学習活動が積極的に行えていると答えた保護者の割合が A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	保護者アンケート（学期末）	A	A	積極的に行えていると答えた保護者は90%であった。コロナ対策をとりながら，保護者・地域と連携した教育活動を行ってきた。今後も学校だよりや39メール等を使用した動画の配信など，今後も積極的に行っていく。
⑩教育環境整備	・教育環境の整備に努める	・計画的に，校舎内外の整備に努める。	総務部	・目的に応じたよりよい教育環境整備を目指す必要がある。	【満足度指標】 ・目的に応じた教育環境整備に取り組んでいる。	教育環境の整備に積極的に取り組んでいると答えた教職員の割合が A：80%以上　B：70%以上 C：60%以上　D：60%未満	教職員アンケート（学期末）	A	A	教育環境整備に積極的に取り組んでいると答えた教職員の割合は100%であった。来年度も教育環境整備に取り組めるように積極的に声をかけていきたい。
学校関係者評価	・コロナ禍の中いろいろとご苦労されながら，学校運営をしていただいていることが伝わってくる。 ・学校教育ビジョン「行きたくてたまらない学校」は保育園にも生かしていきたい。 ・評価項目②「自己肯定感を高める」に対する評価観点は保育においても大切にしている「健康な心と体」につながっている。児童アンケートにおいて，B→Aに改善したのは先生方のきめ細かな対応・共感性・あたたかさだと感じた。 ・評価項目④「基本的な生活習慣を身につける」については，なかなか難しい部分である。保護者への働きかけや活動（静と動の組み合わせ）の工夫の積み重ねなどから，改善していくことができると思う。→幼保小連携を通して，取り組んでいきたい。									